

営農情報(令和8年3月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■かんきつ類

◇整枝・剪定

- ・剪定の一般的な手順は次のとおり。
 - ①樹高を切り下げる
 - ②主枝と競合する枝を間引く
 - ③内向枝を除く
 - ④被さり枝を除く
 - ⑤立ち枝を除く
 - ⑥地際の下垂枝を除く
 - ⑦枯れ枝の除去
- ・高糖系温州は、隔年交互結実のため表裏が顕著になることから、表年樹は不要な強い立枝等を除く程度とし、裏年樹は込みすぎた枝を間引き、樹形を整える切り返しで2割程度の剪定量とする。
- ・連年結果園の表年樹は、結果母枝の数を調整する切り返しを主体とし、予備枝をつくる。裏年樹は、少ない結果母枝を残し、花を確保するため間引き剪定を中心に、果梗枝を整理する程度にとどめる。
- ・すだちは、果実に直射光が必要なため、亜主枝間隔をとり、樹冠内部まで光が届くようにする。また、樹勢維持のため、切り返しにより樹形を整えるとともに、側枝の若返りをはかる。
- ・剪定時期は、通常発芽前に行うが、裏年樹では開花まで待つ切ることできる。

◇施肥(春肥)

	施肥時期	施肥例(N P K)	施肥量/10a
温州みかん	下旬	JA東とくしま温州みかん栽培管理暦参照	
すだち	中下旬	ニューグリーンすだち(13-6-11)	50kg
ゆず・ゆこう	中下旬	ゆず配合(12-7-10)	90kg

※ 農薬散布時に、葉面散布として尿素300倍を混用する。

◇園地の除草

- 除草剤ラウンドアップマックスロード(7日前/5回以内)10aあたり使用例
 - ・通常散布 (使用量500ml、希釈水量50~100L)
 - ・少量散布 (使用量500ml、希釈水量5~10L)ただし、専用ラウンドノズルULV5使用。

【3月の病害虫防除】

みかん・すだち

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
上中旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル※	80倍	—	—
下旬	かいよう病	ICボルドー66D※★	50倍	—	—

※上記薬剤の散布間隔は2週間程度あける。(かんきつ全般)★みかんは、かいよう病発生園のみ

ゆず

上中旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル	80倍	—	—
下旬	幹腐病※	ICボルドー66D	50倍	—	—

※ICボルドー50倍液は、枝幹部を中心に散布し、病斑部には2倍液(水1LにICボルドー1kg)を局所散布する。2倍液は葉にかからないようにする。

幹腐病が進行した病患部は、周囲の健全部を含めて削り取り、トップジンMペースト(剪定整枝時/3回以内)を塗布する。

うめ

落弁期	アブラムシ類	ウララDF	4000倍	7日	2回以内
	灰色かび病	ロブラール(水)	1000倍	45日	〃
展葉期	黒星病	ストロビー(ド)	2000倍	7日	3回以内

キウイフルーツ

萌芽前	花腐細菌病	コサイド3000	2000倍	休眠期~叢生期	—
発芽期		カスミンボルドー ※	1000倍	発芽後叢生期	4回以内

※発芽期以降はクレフノン 200倍を加用する。新梢が10cmまでに散布する。

■たまねぎ

◇追肥(止め肥)

- ・中生、晩生では、3月中旬を止め肥とする。窒素成分で5kg/10aを目安とする。
- ・肥料の遅効きは、玉の肥大、成熟を遅らせ、貯蔵性を悪くするので、止め肥以降の追肥は絶対にやらないこと。

◇病害虫(べと病対策)

- ・べと病は、秋～冬に感染していたものが、3月下旬頃から発症する。その後、周辺に2次感染をおこし、多発することがあるので、発病株があれば、早めに抜き取り圃場外へ持ち出す。
- ・感染時期の3月下旬から、下記の薬剤で早期防除に努める。また、たまねぎは薬液が付きにくいので、展着剤を加用する。

	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
たまねぎ	べと病	リドミルゴールドMZ	500～1,000倍	収穫7日前	3回以内
		プロポーズ(顆)	1,000倍	収穫7日前	3回以内

【トピックス】

チュウゴクアミガサハゴロモ対策について

チュウゴクアミガサハゴロモは、中国原産の外来害虫です。成虫は体長14～15mmほどで、赤褐色から鉄さび色をしています。

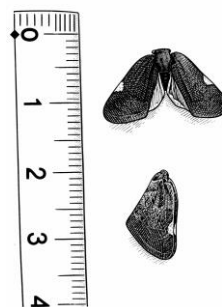
さまざまな果樹や茶などの枝について集団で吸汁すると排せつ物により「すす病」が発生するため、果実の外観を損ねたり、枝に傷を付けて産卵するため枝先が枯死することがあります。

この害虫を対象とした登録農薬はありません。成虫、幼虫は見つけ次第捕殺してください。

卵が孵化する4月までに、卵を産み付けられた枝を切除し埋却する等の処分を剪定も兼ねて3月頃までに行うことが重要です。



産卵された枝のようす



成虫の姿

【ご報告】

勝浦みかん町民公開講座が開催されました。

2月2日に農村環境改善センターで勝浦みかん町民公開講座が開催されました。今回は、ドローン防除をテーマに愛媛県果樹研究センターから2名の研究員を招き、青野光男主任研究員からは殺菌剤について、魚住暢研究員からは殺虫剤についてそれぞれお話をいただきました。

殺菌剤の効果については、黒点病のような雨媒伝染性の病害では安定しているが、灰色かびや貯蔵病害のような傷口から感染する病害では不安定とのこと。また害虫については、アブラムシやハダニは効果が得られやすいが、カイガラムシ類など薬剤がかかりにくい場所に潜む害虫種については効果が出にくい場合もあるとのこと。樹形改善については、開心自然形(主枝3～4本)から双幹形(等高線に平行に主枝2本)に改造することや、縦開窓樹形(樹を真上から見たときに3方向のくさび型の隙間ができるように剪定:山口県考案)により、内部や下部に十分に薬剤が届くようになるとのことでした。

勝浦町では、令和8年度から本格的にドローン防除が始まりますが、これらドローン防除の強みと弱みを十分理解した上で、推進していきたいと思っております。

<お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA農業振興戦略実践課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768